

INFORMATION

平成27年9月18日
全学年版 進路指導部

模擬試験（希望者対象）の受験について

各学年に、秋の希望者模擬試験の案内を行っています。（2年生は既に終了しました。）

3年生になると、秋には国立大学を中心とした各大学の個別大学模試が実施されます。3年生は、各自の第一志望に応じて、これらの模試を申し込み、校外で受験します。このような個別大学対象の模擬試験は、難関国立大学を中心に用意されています。

以下の表は、舟入高校の昨年度の個別大学模試の受験状況です。多くの3年生が、個別大学模試を複数受験していることを示しています。そして、難関になればなるほど、模試での受験がそのままの出願になっています。第一志望を貫く、受験を貫徹するということは、このような数字にも表れています。

【3年生 昨年度の個別大学模試の受験状況と出願状況】

模試名	昨年度 模試受験者	昨年度 前期出願者数
北海道大学／実戦・オープン	3	3
東京大学／実戦・オープン	1	1
一橋大学／実戦・オープン	4	2
東京工業大学／実戦・オープン	4	1
名古屋大学／実戦・オープン	4	2
京都大学／実戦・オープン	2 1	1 2
大阪大学／実戦・オープン	2 3	1 2
神戸大学／実戦・オープン・プレ	4 1	1 3
岡山大学オープン・プレ	9	1 1
広島大学／実戦・オープン・プレ	1 5 2	7 9
山口大学プレ	8	1 9
九州大学／実戦・オープン・プレ	4 3	1 1
医進模試	1	2

※「実戦」…駿台予備学校、「プレ」…北九州予備校・代ゼミ
「オープン」…河合塾、高松高等予備校

●今年度の **3年生の個別大学模試の申込締切は9月25日（金）**です。

早め早めに申込を行い、一日でも早く準備を始めましょう。

●2年生「高2駿台全国模試」申込者数 133名（昨年124名、一昨年149名）

●1年生「高1駿台全国模試」申込締切9月18日（昨年115名、一昨年147名）

1、2年生のこの「駿台全国模試」の受験者数は、実は、全国60～70番で、冊子にも掲載される数です。県内公立高校では、2番目に多い数なのです。多くの先輩が挑

戦している模試なのです。

「希望者模試の受験」について、例年よく聞かれる声に次のようなものがあります。「もう少し実力がついてから受験します。」「（1、2年生であれば）来年受験します。次は受験しますが、今回は見送ります…。」、3年生では、「模試で時間を取られるのが勿体ないので、自分で（過去問題などを）やります…。」

「**模擬試験**」は、本番を想定した「実戦演習、実戦練習」です。さまざまな練習方法がある中で、最も緊張感、集中力が求められる学習であり練習です。

一般入試の最大の特徴は、①制限時間があること、②競争相手があることです。どのように難しい問題であっても、時間が無制限で、競争相手がいなければ、正答は得やすく、合格もできます。

「自分でやる」というのは、いかにも主体的な態度のような印象を与えますが、入試の最大のポイントである「時間の厳しい制限」と「競争相手」が、意識しづらく、次第に「自分に都合のよいようにやる」演習、練習、「我流」になりがちなのです。

物事の成否（成功か不成功か）を分けるのは何か。「成長」の鉄則とは何か。それは、**冷静な「現状把握」→「現状分析」→「対策」→「実行」の繰り返し**しかありません。スポーツ、芸術においてもその基本は同様であるはずです。

「悪い成績をとりたくない」、「自信を失いたくない」という、受験をためらう心理は誰にでも生じるものですが、結局それは、自分の「現実」を見たくないということにすぎません。それでは、そもそもの「現状把握」すらできず、スタートラインに立つこともできないのです。「勇氣」、「挑戦」が求められているのです。

模試は、「スタートライン」に立つことなのです。「結果」、「判定」は気になりますが、あくまで相対的な結果に過ぎません。振り返り、分析、対策、実行が何より大切なのです。舟入生の皆さんの、**果敢な 勇氣ある「挑戦」**に期待します。

1年生第2回（10月実施）の駿台全国模試「国語の採点講評」には、こんな文がありました。

漢字の読み書き能力は、国語の基本であり、それは文章読解力を根底で支える語彙力そのものである。**漢字問題は、したがって、根底においては語彙力を問うものと言える。**単に書き取り問題と軽視する気持ちがあるなら、それは大きな誤りである。「**漢字問題で高得点を取る学生は、総じて、読解問題においても正答率が高い。**」この多くの採点者の実感には理由があるのだ。

また、解答は楷書で大きめに書くこと。漢字書き取りにおいては、出題者はその文字についての正確な認識を問うている。したがって、乱雑であったり、続き字をしているものは、その正確さを認定することができない。

採点を通じて、平生の学習で何が大切なのかを、厳然と示し求めています。答案が返却され、たとえばこのような講評を読み、自身の学習姿勢を問い直すことができたなら、模試の受験の意義は非常に大きいものがあつたと言えます。 **裏面に続く↓**

●高1、高2のハイレベル模試が、どこに照準を合わせているのかを考えてみましょう。

●国公立大学の二次試験の配点と試験時間

例：広島大学・文学部・人文（2015年度前期試験）

国語：400点（※200点を400点到換算） 120分

英語：400点（※200点を400点到換算） 120分

合格者 平均点 510点（二次試験 800点満点）

合格者 最高点 632点

合格者 最低点 434点

●11月進研模試の配点と試験時間

例：2014年度「高1進研記述模試」 受験者数 492,236人

（センター試験現役受験者数 約45万人）

国語：100点 80分 全国平均 38点／舟入平均 49点

英語：100点 80分 全国平均 29点／舟入平均 41点

数学：100点 100分 全国平均 33点／舟入平均 50点

この模擬試験は、2年後にセンター試験を受験するであろう、ほぼ全国の高1生徒が受験する規模の模試です。したがって、受験者の学力レベルを、4年制大学受験チャレンジレベルから、難関大合格レベルまでかなりの難易の幅を想定し問題が作成されています。

●9月実施 全国模試（希望者受験）

例：2014年度「高1駿台全国模試」 受験者数 35,781人

国語：200点 100分 全国平均 82点／舟入平均 75点

英語：200点 100分 全国平均 83点／舟入平均 76点

数学：200点 100分 全国平均 77点／舟入平均 63点

11月の全員が受験する進研模試と比較すると、時間、配点は、実際の大学入試により近いことがわかります。難易度は、全国の難関大学を中心とした志望者に照準を合わせていますので、決して平易ではありませんが、舟入高校の平均点を見てもわかる通り、しっかりと「食らいつく」ことのできるレベルだといえます。

また、例えば、国語200点の問題のうち、記述式：選択式の配点は、約120点：80点です。実際の大学入試問題は、ほぼ100%記述式ですが、それに比べると取り組みやすいことがわかります。さらに、記述式の中にも、例えば、古文の出題では、「ぬ」、「おぼえ」、「助く」の動詞の活用の種類や活用形を問うような、極めて基本的な問題も用意されており、難問というよりは、基本的な力、論理性、思考力、表現力をみる骨のある良問と言えるのです。